

みんなのページ

NPO フクロウの夢

神戸市内に拠点を持つ新聞販売所のメンバーは、豊田会長以下5名で、令和3年に「NPO 法人フクロウの夢」を立ち上げました。その目指すところは、「社会的弱者（特に障害児）に働く場を与え、合わせて環境問題を解決しようとするものです。「環境福祉」という言葉が示すようにこの二つの課題は、経済発展の陰でモノ言えぬ弱者が、その付けを集中的に引き受けることになったという意味で、同根の課題と言えるでしょう。

国連が提唱したSDGsが示すのは、これら弱者を救うには多くの問題群を全体として改めねばならないことを示しています。この大問題に、小さくても確実にできる活動から始めて、その輪が大きく広がることを目指して努力をしています。

具体的な手段としては、当NPOの基地が新聞販売店であることから、そこで発生する回収紙を材料として「エコバッグ」を作ることを始めました。この作業を心身に障害を持つ子どもたちの仕事として提供し、同時にこのバッグによってレジ袋が減ることで、環境負荷が削減されることになりませんが、その削減効果を定量的に把握するため、「LCA」を試みました。

このエコバッグは製品としても優れていると評価され、「実用新案」も取得できました。その制作過程を簡単な手順書として示したことも功を奏して、当NPOに学生・生徒や市民などの参加が増え、また広く「神戸市、西宮市、芦屋市」などの各地にも拡大しつつあります。特別支援学校卒業後の受け入れ先として令和5年12月1日に就労継続支援B型事業所としての認可を得ることができました。さらに作り方を指導するマイスター制度を作り、その担い手としてやり甲斐のある活動の場がさらに広がりました。

内藤正明さん（京都市在住）



ねこのユウジロウ

二代目ユウジロウ君は、11番目に生まれたねこでした。誰かもらってくれないかと、その家のご主人がいつも私が行く電気屋に言ったそうです。電気屋の方は、私の家で先代のユウジロウ君が亡くなり、またねこがほしいということを知っていたので、すぐに連れてきてくれました。まさかこんなに早く二代目のねこに会えるとは思いませんでした。

家に来てから近所の家の庭で、半日ぐらい遊んでいました。ほとんど私の布団には近づきませんでした。食事の時は家に来ますが、特にかつおのジューシーなしっとりとした味が好きで、三度三度食べていました。近所の奥さんが、「ユウジロウ君は私の家の庭で遊んでいます」と教えて下さいました。

私の家にお客さんがみえると、どこからかすぐに来ます。「ユウジロウ君は人が好きなのね」と言ってもらえます。私の家の庭の柿の木やねむの木にも登ります。高い所でも平気で登ります。そしてゆっくり遊んでいます。ずっと元気でいられる様に、がんばって守っていきたいと思っていますし、ユウジロウ君もこれからがんばって、いい子にしていってくれることを願っています。（先代のユウジロウ君も見守ってくれていると思っています。）

新井英美子さん（埼玉県蓮田市在住）

